

平成25年度 事業報告書

1 組織強化活動

(1) 全戸会員制の推進

社会福祉事業の組織的活動の促進と地域福祉の増進を図るため、社協の全戸会員制を推進し、各自治会の協力のもとに7,629戸で98%の加入実績となった。

(2) 高額寄付者に対する感謝状の贈呈

社会福祉事業に10万円以上の金品を寄付された22名の寄付者に対し、感謝状を贈呈した。

(3) 研修会等への参加

- 上川管内社協職員連絡協議会研修会 (25年6月7日 旭川市3名)
- 道北地区市社協職員自主研修会 (25年6月21日～22日 紋別市6名)
- 全道社協会長事務局長研究協議会 (25年6月27日～28日 札幌市2名)
- 上川地区地域に理解され支持される社協づくり研修会 (25年8月9日 旭川市1名)
- 役員研修会 (25年10月12日 士別市3名)
- ブロック別市町村社協事務局長会議 (25年11月6日 名寄市1名)
(26年3月19日 名寄市1名)
- 上川地区市町村社協会長事務局長会議 (25年11月12日 旭川市2名)
- 全道市町村社協事務局長連絡会議 (25年11月21日 札幌市1名)
- 法人役員研修会 (25年11月22日 札幌市1名)
- 全道福祉のまちづくり学習推進セミナー (26年1月14日 札幌市1名)

2 広報活動

(1) 社協だよりの発行

全戸配布する「社協だより」を、6回(第168～第173号)発行し、各種福祉サービス、ボランティア活動及び住民の福祉活動など幅広い情報の提供に努めた。

(2) 情報提供

各種ボランティアスクール開催案内等、ホームページによる福祉サービスの情報提供、また市内報道機関・行政の協力による広報活動を行った。

3 地域福祉活動

(1) 支部活動の推進

市内の地区自治会連合会を単位とした5支部（中央・上士別・多寄・温根別・朝日）に対し、各地区独自の地域福祉活動の推進を図るため活動費を助成した。

(2) 小地域ネットワーク活動推進事業

在宅福祉活動がより一層地域に定着していくことを願って、平成2年度から単位自治会を対象とした「在宅福祉サービス実践地区指定事業」を行ってきたが、平成14年度より「小地域ネットワーク活動推進事業」として改め、各自治会とタイアップした地域福祉の推進をめざし、本年度は20自治会に対し、1自治会3万円の助成を行った。

4 ボランティア活動

(1) 平成25年度しべつヤングボランティアスクール

日 程 5月25日（土）13：30～15：00

会 場 市民文化センター 研修室

内 容 「福祉とは何か」「ボランティアとは何か」を、今一度見つめ直し、行動していくためのきっかけとなることを目的として開催した。

講演 「可能性を信じて～変化する素晴らしさ」

— パラリンピックを通して —

講師 高橋 明氏

NPO法人アダプテッドスポーツ・サポートセンター理事長

参加者 ボランティア、一般市民 58名

(2) 士別ふれあいネットワーク会議研修会

日 程 6月15日（土）13：30～16：15

会 場 市民文化センター 研修室

内 容 東日本大震災では、災害弱者とされる障がいをもった方が多く被害にあったことから、「まさか」の時のため、障がいをもった方自身、また、関係者の日頃の備えについて研修した。

映画上映

「命のことづけ ～死亡率2倍 障がいのある人たちの3.11～」

講義・演習 「まさかの坂はどこにでもあります」

講師 篠原辰二氏

一般社団法人 ウェルビーデザイン理事長

参加者 障がい者団体会員、関係団体 57名

(3) 第35回住民福祉活動を進めるつどい

日 程 9月13日(金) 18:30~20:00

会 場 士別市民文化センター 小ホール

内 容 三重県との協働により、人に優しい社会づくりを推進する『伊勢志摩バリアフリーツアーセンター』を立ち上げ、障がい者主導のバリアフリー評価による観光情報の収集・発信と、観光バリアフリー化事業等に取り組んでいる中村元さんにお出でいただき、誰もが安心して暮らせる地域社会づくりについて研修した。

講演 「人づくり・まちづくり」

～住民が観光を変え、行政を変えた伊勢志摩～

講師 中村 元氏

NPO法人 伊勢志摩バリアフリーツアーセンター理事長

参加者 133名

(4) 平成25年度士別市福祉教育懇談会

日 程 10月11日(金) 18:30~20:00

会 場 サポートセンターしべつ

内 容 福祉教育の実践を通して「心豊かな子どもたちを育てる」ため、市内の全小・中・高等学校に呼びかけ、互いの実践と情報を交換し交流する中で、福祉教育の啓発と促進を図ることを目的に実施した。

講演 「ボランティアの可能性」～心豊かな子どもたちを育てる～

講師 鈴木盈宏氏 日本ボランティアコーディネーター協会理事

参加者 市内教員、ボランティアセンター運営委員 20名

(5) ボランティア研修交流会

日 程 10月12日(土) 14:30~20:00

会 場 士別市生涯学習情報センターいぶき

内 容 行政区域の枠を越えたボランティアネットワークの輪を構築し、強化を図ることを目的として、士別市、名寄市、剣淵町、和寒町のボランティアによる研修交流会を実施した。

・シンポジウム

「大災害におけるボランティア活動の変化と、今、今後必要とされるボランティア活動」

シンポジスト

鈴木盈宏氏 日本ボランティアコーディネーター協会理事

篠原辰二氏 一般社団法人 ウェルビーデザイン理事長

・ワークショップ テーマ「まさかの坂はどこにでもあります」

講師 篠原辰二氏

・交流会

参加者 54名

(士別市31名、名寄市12名、剣淵町 4名、和寒町 5名、講師 2名)

(6) 第23回士別市小学生ボランティアスクール

日 程 11月 9日(土) 10:00~11:30

会 場 サポートセンターしべつ 大会議室

内 容 テーマ 「ぼくらにできるボランティア」

全盲の写真家である大平啓朗さんから、全国縦断一人旅をする中で出会った多くの人々とのエピソードや、日頃の活動についてお聞きし「ボランティア」について研修した。

講師 大平啓朗氏

参加者 12名

(7) 第19回士別市中学生・高校生ワークキャンプ

日 程 11月 9日(土) ~ 10日(日)

会 場 士別市つくも青少年の家

内 容 障がいをもって生活している方々や、ボランティア活動に取り組んでいる方々とのふれあいの中から、生きることの尊さや支えあうことの大切さを学び、ボランティア活動に取り組むきっかけの場となることを目的として開催した。

テーマ 「あたり前って？」

講演、ワークショップ

講師 藤田泰昭氏 国立日高青少年自然の家 主任企画指導専門職

参加者 市内高校生、ボランティアセンター運営委員 17名

(8) 平成25年度士別市民ボランティアスクール

日 程 2月10日(月) 18:30~20:00

会 場 士別市民文化センター 研修室

内 容 薄れがちな人間関係、忘れがちな地域の助け合いの修復を目指し、地域のネットワーク活動、住民相互の支援活動を更に進め、地域力、地域の福祉力を高めていくことを目的に実施した。

小地域福祉活動実践報告

・第一町内会自治会

・南町南栄自治会

講演 「小地域福祉活動のすすめ～地域で起きている様々なこと」

講師 篠原辰二氏 一般社団法人ウエルビーデザイン理事長

参加者 74名

(9) 福祉・ボランティア団体助成事業

福祉団体、ボランティア団体の活動を援助するため、18団体に対し助成し活動の助長を図った。

(10) 学童生徒のボランティア活動普及事業

本事業は、学童生徒の社会福祉への理解と関心を深め、ボランティア精神を養うことを目的として、市内全校（小学校8校、中学校6校、高等学校2校）に対し、生徒数20人以上の学校は年間5万円、20人未満の学校は年間3万円を助成し活動の助長を図った。

(11) 土別市ボランティアセンターの運営

本市のボランティア活動を推進するため、17名の運営委員のもと各種ボランティアスクール、ワークキャンプ、住民福祉活動を進めるつどい等の企画運営や、ボランティアセンターだよりの発行等に取り組んだ。

○運営委員会 委員17名 委員会12回（第2月曜日）開催

○個人登録ボランティア 74名（平成26年3月31日現在）

○ボランティアセンターだよりの発行 3回

○社協だより掲示板への掲載 6回

○ボランティア指定校担当者会議の開催 2回

○土曜ボランティア学習塾の開催（対象…中学生、高校生）

（ボランティア体験学習や情報交換を継続的に実施）

塾登録者 16名

塾開催日 毎月第2土曜日（12回開催）塾生延べ58名参加

開催内容 ふれあい広場（学童生徒コーナー）企画運営

旭山動物園障がい者介助ボランティア活動

児童館児童、障がい者との交流 等

○社会貢献活動への協力

「ペットボトルのキャップを集めて世界の子どもたちにワクチンを届けよう」、「空き缶のリングプルを集めて車椅子を贈ろう」という運動が市民に定着しつつあり、特にエコキャップ（ペットボトルのキャップ）に関しては、本年度は680の団体、個人から寄せられ、平成20年4月からの送付累計は4,755,066個（26年4月14日現在）で、ワクチン5,784人分になった。

(12) 収集ボランティア活動

市民から寄せられた使用済み切手、プリペイトカードを収集ボランティアサークルひまわりが整理し「誕生日ありがとう運動本部」に送っており、本年度の実績は次のとおりである。

使用済み切手 193件 139,022枚

使用済みカード 66件 2,856枚

(13) 声の図書活動

○声の図書貸出事業

本事業は、小説、市の広報誌等を、声の図書朗読ボランティアが録音し、貸し出すものであり、出来上がった録音テープは現在 1,808編 11,994本となり、本年度の貸し出しは延 32件 175編 1,650本であった。

・利用者 視力障がい者他 4名

5 互助共励活動

(1) 無縁仏供養

日程 8月20日

会場 しべつ霊園「無縁の碑」

無縁者の霊を慰めるため、昭和60年士別市が建立した「無縁の碑」において、市関係者の参列のもと51柱の供養をした。

(2) 歳末たすけあい募金運動（25年12月 1日～30日）

本募金運動は、多くの市民、事業所、団体等の協力のもと、士別市共同募金委員会と共催で実施しており、本年度は催し物による募金を含め、48件 1,444,200円の浄財が寄せられた。

なお、毎年恒例となっている、ボランティアサークルむぎの会主催による「歳末チャリティーふれあい演芸会」益金446,930円と、しべつふれあいの会主催「歳末チャリティーカラオケ選手権大会」益金361,530円の募金合計は、808,460円となり実績の約56%を占めている。

(3) 「ふれあい募金箱」運動

昭和58年より、歳末たすけあい募金運動の通年化と市民の善意の助長を図るため、しべつふれあいの会の協力のもと「ふれあい募金箱」を設置しており、その総額が80,455円となり、全額趣旨に添って「歳末たすけあい募金」として寄贈した。

募金箱設置事業所 市内37ヶ所

(4) 歳末たすけあい見舞事業（25年12月）

民生委員・市保健福祉部の協力により対象者を調査し、歳末見舞金品を交付した。

対象者 191名 見舞金品総額 1,148,000円

(5) ふれあい広場'13 IN しべつ P A R T 30

日 程 7月6日(土)～7日(日)

会 場 士別市総合体育館

テ ー マ 「で愛 ふれ愛 かたり愛」～あふれる笑顔 みんなが主役～

実施主体 福祉・ボランティア団体・各学校並びに市民有志で構成された、175名の「ふれあい広場'13INしべつP A R T 30実行委員会」が、企画から当日の運営にあたった。

内 容 ・ 語らいコーナー…語らいサロン、血圧測定、健康相談(市立病院医師派遣)

・ 体験の広場…点字教室、盲導犬体験・講話、収集ボランティア活動体験、障がい者スポーツ交流(車イスラグビー等)等
30周年記念事業

「10万個のレゴブロックで未来の街をつくろう!!」

参加者 265名(親子、友人同士等)

・ ステージ企画…ふれあいコンサート 等

・ ふれあいの店…障がい者関係作品展示即売、バザー

・ ボランティア障がい者福祉展

…布の絵本わらべ展、特別支援教育作品展、福島県川内村帰村への歩み展

・ 学童生徒ボランティア活動展

…各学校のボランティア活動時のパネル写真展・学童生徒企画コーナー(駄菓子屋、バルーンアート等)

・ 福祉標語

応募点数 229名 229点

最優秀作品 「みんなの輪 両手を出し合い つなごうよ」

・ ふれあいの夕べ(17:30～19:00)

参加者 600名(つまみセット交換数)

会 議 実行委員会2回含め 25回開催

入 場 者 2日間 約 3,200名

協 力 者 2日間 490名(実行委員、事務局を除く)

ガイドヘルプ活動

ガイドヘルプ委員会を設け、自力で移動の困難な方に対してのガイドヘルプ活動を行い、2日間で22名が参加した。

(6) 生活福祉資金貸付事務

低所得者や高齢者、障がい者のいる世帯等の生活自立を支援するため北海道社会福祉協議会が主体となり、市町村社協が相談窓口となっている事業で、本年度は生活支援費、教育支援資金についての相談が13件あった。

(7) 特別生活資金（冬期生活資金）貸付事務（11月1日～3月31日）

福祉年金等を受給する高齢者、障がい者及び特定疾患世帯に対し、燃料費など冬期の生活を確保する生活資金を貸付する事業で、北海道社会福祉協議会が主体となり市町村社協が相談窓口となっており、本年度は2件の相談があり決定している。

(8) 士別市心配ごと相談所運営

近年、市民の悩みごとや心配ごと等、相談内容の多様化が目立っており、適切な助言と、各種福祉制度等の紹介活用等を行った。

相談所

常設相談所…社協事務局内に置き、相談員が随時相談を受けている。

地域相談所…58名の相談員（民生委員）宅とし随時相談を受けている。

相談件数 年間130件

主な相談内容（相談件数の多い順）は、老後、健康、生計、医療であった。

(9) 老人安全杖贈呈事業

おおむね70歳以上の高齢者や障がい者に対し、申し出により安全杖を無料で贈呈しており、本年度は201本の利用があった。

6 朝日地域福祉圏事業

(1) ふれあい昼食会

町内の70歳以上の高齢者を対象に昼食会を月1回開催し、ボランティアを含め延べ666名の参加があった。

(2) 第44回福祉運動会

日程 10月21日（月）

会場 朝日町農業者トレーニングセンター

参加者 130名（65歳以上の住民84名、ボランティア46名）

(3) ボランティア支援事業

○広報紙「ぼらんていあネットワーク」を年6回発行した。

(4) 助成事業

心身障がい児の療育施設通所に対し交通費の一部を助成した。

- ・士別市こども通園センターのぞみ園通園者6世帯7人（149回）
- ・旭川市療育施設通園者1世帯1人（14回）
- ・名寄市立総合病院リハビリ通院者1世帯1人（12回）

- | | | | |
|----|-------------------------|------------------|--------|
| 7 | 士別市総合福祉センター指定管理運営事業 | | [別記1] |
| 8 | 士別市多世代スポーツ交流館指定管理運営事業 | | [別記2] |
| 9 | サポートセンターしべつ受託事業 | | [別記3] |
| 10 | 士別市施設入浴サービス受託事業 | | [別記4] |
| 11 | 士別市移送サービス受託事業 | | [別記5] |
| 12 | 士別市在宅介護支援センター運営受託事業 | | [別記6] |
| 13 | 福祉パトロール受託事業 | | [別記7] |
| 14 | 士別市いきいきデイサービス受託事業 | | [別記8] |
| 15 | 介護保険制度に係わる事業者指定 | | |
| | (1)居宅支援事業所(ケアプラン作成機関) | | |
| | 士別市社協居宅介護支援事業所 | 平成12年4月1日(指定) | [別記9] |
| | (2)居宅サービス事業所(サービス提供機関) | | |
| | 士別市社協ヘルパーステーション | 平成12年4月1日(指定) | [別記10] |
| | 士別市社協訪問入浴事業所 | 平成12年4月1日(指定) | [別記11] |
| 16 | 障害者自立支援法に係わる事業者指定 | | |
| | (1)居宅支援事業所(身体・知的・児童・精神) | | |
| | 士別市社協ヘルパーステーション | 平成18年4月1日(指定) | [別記12] |
| 17 | 介護保険関係研修会への参加 | | |
| | ○主任ケアマネフォローアップ研修 | (25年6月29日) | 札幌市1名) |
| | ○介護支援専門員更新研修 | (25年6月～9月) | 旭川市2名) |
| | ○高齢者虐待防止推進研修会 | (25年8月21日・9月13日) | 札幌市1名) |
| | ○介護給付費等適正化事業 | (25年9月22日) | 士別市7名) |
| | ○主任ケアマネフォローアップ研修 | (25年10月26日) | 札幌市1名) |
| | ○福祉専門職キャリアアップ研修 | (25年12月12日～13日) | 札幌市1名) |
| | ○認定調査員現任研修 | (26年1月29日) | 士別市1名) |
| | ○士別市介護支援専門員研修 | (26年3月8日) | 士別市3名) |

18 平成25年度 強化事業

(1) ふれあい広場30周年記念事業

従来取り組んでいる事業の他に、「10万個のレゴブロックで未来の街をつくろう！！」をテーマに、ユニバーサルデザイン玩具である「レゴブロック」を使い、子どもからお年寄り、障がいをもった方々が一緒になって街づくりに取り組んだ。

参加者 265名（家族、友人同士等）

(2) 第2期士別市地域福祉実践計画策定（平成26年度～平成30年度）

誰もが住み慣れた地域で安心して生活することのできる、福祉のまちづくりを推進するため、1,000名の市民アンケート調査を行うとともに、関係団体12名による計画策定懇談会を設置し、今後5年間の社協活動の指針となる、第2期士別市地域福祉実践計画を策定した。

アンケート調査（9月5日～9月30日 回収率60.5%）

地域福祉実践計画策定懇談会（4回開催）

(3) 日常生活自立支援事業への取り組み

道社協委託事業の日常生活自立支援事業について、地域住民に身近な制度となるよう、平成26年度より受託することとし、この運営にあたり事業効率・コスト軽減等を勘案し、近隣4社協（士別、和寒、剣淵、幌加内）の共同事業として、実施することとした。

- ・ 1市3町社協事務局長、自治体担当者合同会議（25年6月11日）
- ・ 事業先進地調査（25年7月11日 富良野市）
- ・ 1市3町事務局長会議（7/29、8/28、9/27、10/30、11/29、2/12）
- ・ 日常生活支援専門員養成研修（25年9月19日 20名）
- ・ 日常生活支援員養成研修（26年3月20日 22名）

19 その他

社協監事による監査	4回	8月28日・11月26日・2月28日・5月16日
社協正副会長会議	4回	5月15日・8月13日・11月29日・3月5日
社協理事会	3回	4月1日・5月22日・3月14日
社協評議員会	2回	5月29日・3月26日
出前講座の実施	9回	

地域での福祉活動の推進を図るため、ボランティア活動、高齢者福祉等に関して、自治会、学校等へ職員が出向き出前講座を行った。